

参考資料

分類名〔病害虫〕

参 23

オキサゾスルフィル粒剤のイナゴ類に対する防除効果

宮城県古川農業試験場

要約

オキサゾスルフィル粒剤の箱施用処理はイナゴ類に対して殺虫効果と被害葉防止効果がある。

普及対象：水稻栽培農家
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

イナゴ類は水稻の主要害虫であるが、本種に対し栽培条件下で実用性が認められた箱施用剤は少なかった。そこで、近年開発されたオキサゾスルフィル粒剤（商品名：ブーンアレス箱粒剤等）の殺虫効果と被害葉防止効果をほ場試験で評価し、その実用性を明らかにしたので、参考資料とする。

2 参考資料

- （1）オキサゾスルフィル粒剤の移植時の箱施用処理はイナゴ類に対する防除効果が高い（図 1）。また、イナゴ類中齢幼虫の侵入盛期である 7 月上旬まで、防除効果は持続する。

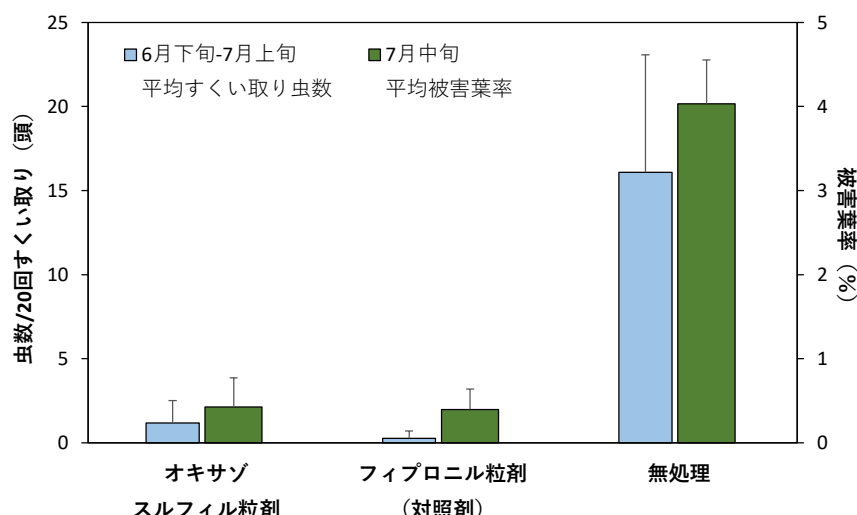


図 1 イナゴ類に対する殺虫効果および被害葉防止効果（令和 6、7 年）

注 1）図中のすくい取り虫数および被害葉率は令和 6 年と令和 7 年場内試験の平均値を示す。

注 2）縦線は標準偏差を示す。

注 3）年次毎の各処理区の耕種概要、調査方法の詳細は図 2、3、4、5 のとおり。

3 利活用の留意点

- （1）イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネツトムシ等の他の水田害虫の同時防除にも利用可能である（表 1）。
- （2）5 月中旬に「ひとめぼれ」（稚苗）の移植当日に薬剤処理をし、機械移植したほ場（面積：5 a）において、令和 6 年と令和 7 年に試験を実施した。薬剤処理はほ場毎に行い、反復を設置せず、ほ場内の 2 地点で殺虫効果と被害葉防止効果の調査を行った。効果の評価は 2 地点の合計値で行った。畦畔は草刈りをせず、イナゴ類の発生に好適な条件下で実施した。
- （3）対照剤としてイナゴ類に効果が高いフィプロニル粒剤を用い、効果を比較した。令和 6 年度の殺虫効果は対照剤と同等であり（図 2）、被害葉防止効果は優っていた（図 3）。令和 7 年度の殺虫効果および被害葉防止効果は対照剤よりやや劣っていた（図 4、図 5）。

参考資料 23 オキサゾスルフィル粒剤のイナゴ類に対する防除効果

- (4) 7月中旬以降は殺虫剤の残効性も低下するため、防除効果が低下する。7月中旬以降に、本田でイナゴ類（コバネイナゴ）の中齢幼虫が多発した場合は、殺虫剤の本田散布を検討する。
- (5) 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避ける。
- (6) 薬剤の使用に当たっては、最新の登録情報を確認する（独立行政法人農林水産消費安全技術センタートップページ：<http://www.famic.go.jp/>）。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場 作物環境部 電話 0229-26-5107）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

土地利用型作物の病害虫防除技術の検討（令和6年～令和9年度）

(2) 参考データ

表1 オキサゾスルフィル粒剤の成分、使用方法（農薬登録情報：令和8年5月28日現在）

有効成分（IRACコード）	性状・毒性	使用量	使用時期	使用回数	適用害虫
オキサゾスルフィル 2% (I:39)	類白色～淡褐色細粒 普通物	50g/箱	移植当日	1回以内 (移植時処理)	イナゴ類 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ イネツトムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ コブノメイガ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ

注1) 太字で示した害虫は、本県または東北各県の試験等で効果が確認された種であることを示す。

注2) 使用量、使用時期、使用回数は一例を示したのみである。また、同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

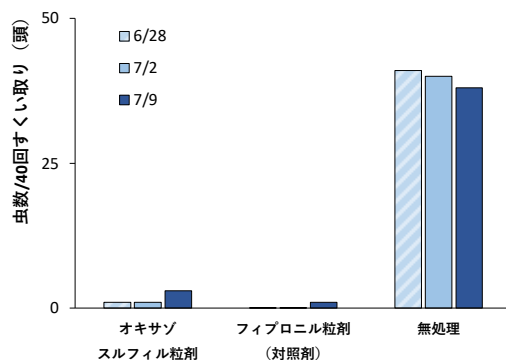


図2 イナゴ類に対する殺虫効果（令和6年）

注1) 移植日：5月15日、品種：ひとめぼれ

注2) 畦畔から15条目で捕虫網を用いた20回のすくい取りを2地点で実施し、殺虫効果をみた。

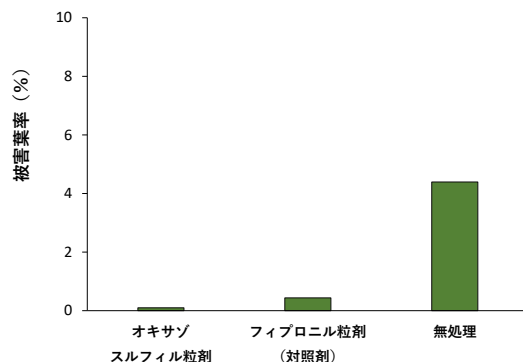


図3 イナゴ類に対する被害葉防止効果（令和6年）

注1) 移植日：5月15日、品種：ひとめぼれ

注2) 畦畔から12条目において、2地点で10株の被害葉数を数えた。また、処理区あたり5株の全葉を数え、計20株の被害葉数／5株全葉数×4×100で被害葉率を算出した。

注3) 7月12日の被害葉率を示す。

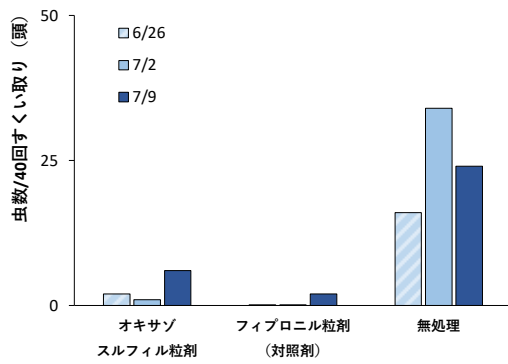


図 4 イナゴ類に対する殺虫効果（令和 7 年）

注 1）移植日：5 月 15 日、品種：ひとめぼれ
 注 2）畦畔から 15 条目で捕虫網を用いた 20 回のすくい取りを 2 地点で実施し、生存中数から殺虫効果をみた。

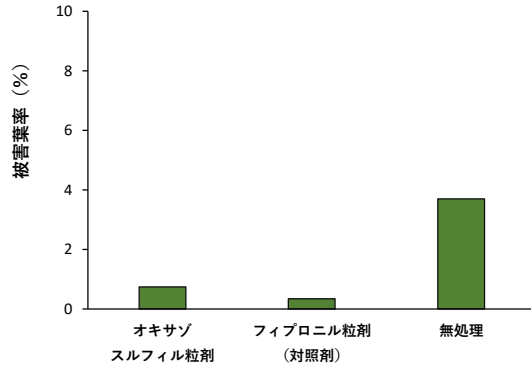


図 5 イナゴ類に対する被害葉防止効果（令和 7 年）

注 1）移植日：5 月 15 日、品種：ひとめぼれ
 注 2）畦畔から 12 条目において、2 地点で 10 株の被害葉数を数えた。また、処理区あたり 5 株の全葉を数え、計 20 株の被害葉数／5 株全葉数×4×100 で被害葉率を算出した。
 注 3）7 月 15 日の被害葉率を示す。

- (3) 発表論文等
 なし
- (4) 共同研究機関
 なし